

北海道大学 経済学部
第3年次 編(転) 入学試験

平成30年度 専門科目 試験問題

試験期日：平成29年8月24日

試験時間：11時00分～12時30分

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は、

| | |
|------------|---------|
| 必須問題 | 2～3 ページ |
| 選択問題 (経済学) | 4～5 ページ |
| 選択問題 (経営学) | 6 ページ |

である。
3. 必須問題は、問題Ⅰと問題Ⅱの2つからなっている。必ず両方に解答しなさい。
4. 選択問題は、出願時に選択した分野の問題に解答しなさい。
5. 受験番号、氏名、選択問題の分野は、監督員の指示に従って解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
6. 解答用紙は2枚配布される。必須問題、選択問題ごとに1枚の解答用紙を用いなさい。
7. 解答用紙に解答する際に、問題番号・記号があれば解答の前に必ず記入しなさい。
8. 解答用紙が不足した場合には挙手して監督員に連絡しなさい。
9. 試験場退出は試験開始30分が経過するまで認めない。

必須問題

問題Ⅰ. 以下の(1)から(6)の全ての問題に答えなさい.

- (1) 消費者の効用関数を $u(x,y)=x+y$ とする. ここで, x と y はそれぞれ X 財と Y 財の消費量を示す. X 財の価格を 1, Y 財の価格を 2, 所得を 40 とする. このケースの無差別曲線と予算線を図に描き, 効用最大となる最適な X 財と Y 財の消費量を求めなさい.
- (2) 財市場のみの簡単なマクロモデルで, $Y=C+I$, $C=20+0.8Y$, $I=80$ のとき, 均衡国民所得 Y を求めなさい. ここで, Y は国民所得, C は家計の消費支出, I は企業の投資支出を示す.
- (3) 企業が 1 期の期首に 150 だけの費用をかけて投資を行うと, 2 期と 3 期の期首においてそれぞれ 110, 121 だけの収益が生じる. この機械は 3 の期首において収益を受け取った直後に廃棄される. このとき, 1 期の期首を現在として, 2 期と 3 期の収益の現在価値を求め, この投資を行うべきか否かを答えなさい.
- (4) 部品やアフターサービスの利益率が高く, 完成品の利益率が低い現象を何というか, 答えなさい.
- (5) 社外の組織や資源を活用しながら社内の技術革新を図ることを何というか, 答えなさい.
- (6) 企業が自らの事業領域を, 川上もしくは川下に拡大することを何というか, 答えなさい.

問題Ⅱ. 以下の(1)から(8)のうち4問を選択し, それぞれ 5 行程度で答えなさい.

- (1) 「パレート最適」という用語を説明しなさい. さらに, 私的財のみ存在する経済において, 2 人の消費者の効用関数が標準的 (例えば, コブ・ダグラス型) であるとき, パレート最適な点で 2 人の消費者の限

界代替率が等しくなることをエッジワース・ボックスの図を用いて説明しなさい。

- (2) 「市場の失敗」という用語を厚生経済学の第一命題との関連で説明しなさい。さらに、「市場の失敗」の例を1つ挙げ、それについて説明しなさい。
- (3) IS-LMモデルで、貨幣数量説が成立するとき、財政政策は国民所得を増加させることができるか否かについて説明しなさい。
- (4) 政府が国債を発行するとき、国債を中央銀行（日本では日本銀行）が購入する方法と、民間の銀行等が購入する方法の2つがある。いま、政府が国債を発行し政府支出を増加させるとき、これら2つの方法で均衡の国民所得と利子率にどのような違いが生じるか、IS-LMモデルの図を用いて説明しなさい。
- (5) オーバーエクステンションとは何か、説明しなさい。
- (6) SECIモデルとは何か、説明しなさい。
- (7) 組織文化の機能と逆機能について、それぞれ説明しなさい。
- (8) OJTとOff-JTについて、それぞれ説明しなさい。

選択問題（経済学）

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．以下の IS-LM モデルについて，（１）から（５）の全ての問題に答えなさい。

生産物市場： 生産物市場の需給均衡式 $Y = C + I + G$

家計の消費関数 $C = 10 + 0.8(Y - T)$ ， 租税関数 $T = \frac{1}{4}Y$

投資関数 $I(r) = 120 - 200r$ ， 政府支出 $G = 80$ （兆円）

貨幣市場： 貨幣市場の需給均衡式 $\frac{M}{P} = 0.1Y + L(r)$

実質貨幣残高 $\frac{M}{P} = 180$ （兆円）， 投機的貨幣需要関数 $L(r) = 140 - 200r$

ここで， Y は国民所得， C は家計の消費支出， I は企業の投資支出， G は政府支出， r は利子率， M は名目貨幣ストック， P は物価水準， T は租税を示す。

- （１）IS 曲線と LM 曲線の式を求めなさい。
- （２）横軸に Y ，縦軸に r をとり，IS 曲線と LM 曲線を図示しなさい。
- （３）問い（１）の結果を用いて，均衡の国民所得 Y と利子率 r を求めなさい。
この均衡点 E を問い（２）で描いた図の上に示しなさい。さらに，均衡における家計の消費支出 C ，企業の投資支出 I ，政府の財政収支 $(T - G)$ の金額を答えなさい。
- （４）政府支出 G が 10 兆円だけ増加したとき，新しい IS 曲線と LM 曲線の式を求めなさい。さらに，新しい均衡における国民所得 Y と利子率 r を求めなさい。
- （５）完全雇用水準の国民所得 Y_F を 600 兆円とする。問い（３）と（４）の結果を用いて，完全雇用を実現するには政府支出 G をどれだけ増加しなければならないか，答えなさい。ここで，現在の国民所得 Y は問い（３）で求めた金額とする。

問題Ⅱ. 以下の説明を踏まえて、(1) から (3) の全ての問題に答えなさい。

独占企業の需要関数が以下の通りであるとする。

$$D = 4 - p$$

D は需要であり、 p は価格である。独占企業の費用関数は以下の通りであるとする。

$Q > 0$ の場合、 $C = 2Q + \frac{1}{2}$ 、そして $Q = 0$ の場合、 $C = 0$ 。 Q は産出量、 C

は総費用である。産出量は非負である。

- (1) 独占企業の利潤関数を産出量の関数として書きなさい。
- (2) 独占企業の利潤最大化が達成される産出量 Q^* 、およびその時の価格 p^* を求めなさい。
- (3) 利潤が最大化された独占企業の収益、費用、および利潤を求めなさい。

選択問題（経営学）

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．企業がコスト・リーダーシップ戦略と差別化戦略のいずれを追求するとしても，メリットとデメリットが存在する．それぞれの戦略を追求する際のメリットとデメリットを説明しなさい。

問題Ⅱ．マズローの欲求階層説について，説明しなさい。